

RAC 掲示板

■ 全国川遊び 100 選

日本の川から RAC 会員団体お勧めの川をピックアップして、安全に楽しく遊べる川をご紹介します。また水辺で遊ぶときのルールも説明しています。

順次 HP に掲載しますので、是非ご覧ください。また、お勧めの川も募集中です。

アドレス <http://www.rac.gr.jp/10kawaasobi100/>



■ 映画「河童のクウと夏休み」

RAC は今夏 7 月 28 日（土）から全国で上映される「河童のクウと夏休み」を応援します。人間界に迷い込んだ河童と少年の繰り広げるファンタジー。子どもだけでなく大人も感動するアニメーションです。この映画の広報と連携して川の体験活動を推進する予定です。

アドレス <http://www.kappa-coo.com/>

■ テキスト「川の環境学習に取り組むひとのために」

平成 18 年度、トヨタ自動車株式会社「トヨタ環境活動助成プログラム」の助成金を受けて、自然や環境にまつわる総合学習に携わる方に向けたテキストを作成しました。水辺の生態や水質の調査など、さまざまな分野が網羅されているテキストです。部数に限りがございますので、ご希望の方はお早めに RAC 事務局までご連絡ください。



■ RAC 新商品

先ごろ RAC のグッズに新商品がお目見えしました。どちらも指導者には欠かせないツールです。

また、従来の商品も販売していますので、詳しくは RAC の HP をご覧ください。

RAC 指導者用 PFD

川の体験活動指導者向けに高浮力のライフジャケットを、RAC、ミナミスポーツ、高階救命器具(世界シェア NO1)の3者の協力により開発しました。

浮力は 12kg あり、UL/US コーストガードのタイプ 5 (レスキュー) の認定品です。第 1 期生産品の納期は平成 19 年 6 月下旬となります(完全受注生産)。

会員価格: 25,200 円(税込)



RAC スローロープ

水辺の活動におけるベストレスキューツールであるスローロープを、RAC、ミナミスポーツの協力のもと開発しました。ロープの直径は 10 ミリ、長さは 15 メートル。スローバックの前面には RAC のロゴ、背面はメッシュ使用となっています。ウエスト部分はクイックリリースハーネスになっているので、緊急時にも対応できます。

会員価格: 3,960 円(税込)



※会員価格の対象は RAC 正会員、子どもの水辺登録団体、学校関係者です。

■ ライフジャケットを着用しよう!

全国大会の分科会報告の中でも触れましたが、昨年 7 月現在 801 万人以上の利用者を有するコミュニティサイト「mixi」に、「ライフジャケットを着よう」というコミュニティがあります。これは水難事故を防ぐツールであるライフジャケットの認知度を上げようと、昨年 8 月に開設されました。RAC の管理運営ではありませんが、RAC の指導者も賛同している活動です。mixi に加入されている方で興味のある方は是非ご覧ください。

アドレス http://mixi.jp/view_community.pl?id=1248890 (mixi の会員の方のみアクセスできます)

【お問い合わせ】 NPO 法人 川に学ぶ体験活動協議会(RAC) 事務局
〒104-0033 東京都中央区新川 2-10-6 カヤマビル 703 号
TEL.03-5542-7577/ FAX.03-5542-7578/ IPTEL.050-3420-7351 E-MAIL rac@rac.gr.jp



第 6 回川に学ぶ体験活動全国大会 in 関東 開催報告 「川でのリスクマネジメント」

平成 18 年 12 月 2 日・3 日、東京都港区の東京海洋大学品川キャンパスにおいて「第 6 回 川に学ぶ体験活動全国大会 in 関東」が開催された。今大会は主題を「川でのリスクマネジメント」、副題を「水難事故を一つでも減らすために、今、私たちに出来ること」とし、全国から集まった RAC 会員・リバーピープルが活発な意見交換をおこなった。

■ 基調講演「川はよみがえったか」より (一部抜粋)

藤吉洋一郎 (RAC 代表理事・NHK 解説委員)

川の活動のきっかけと RAC の成り立ち

川の活動のきっかけになったのは、河川法の改正作業である。治水と利水が河川法の目標だったところに、環境を加えた。それまでは環境に予算を使おうとしても認められなかったのが、法律を変えようということになった。そこでは、当時技官だった関正和さんの本がいわば聖書となった。その後、河川審議会の小委員会「河川環境教育小委員会」が報告書をまとめる時に、「川に学ぶ小委員会」と名前を変えて、環境教育(上から下に授ける)というのではなく、大人も子どもも川に入って水から学び取るという方法でなければならないという報告書をまとめた。

今の物質文明は、大量消費、大量生産で、そして大量消費である。それを続けてしまうと、みんな共倒れになってしまう。その影響が、川に現れている。それを改めて、循環型の社会にしていかなければ川はきれいにならない。人と自然とのふれあい、自然を台無しにしない生き方をするために、川に入って川に学ぼうということであった。それから RAC という組織がつくられた。

受難の時代

関正和さんの「大地の川」「天空の川」という本がある。印象に残ったことは、戦後の半世紀は川にとって災難の時代であったということ。水のある場所、水辺、水溜りは経済活動に役に立たないものとして埋め立てられた。東京大阪の水辺の面積は明治時代には 11% だったのが今では 6% になってしまった。効率を優先した結果である。洪水を流すときに邪魔になる木は、すべて伐採される。草が生えると刈り取らなとだめなので、コンクリートの壁、川底までコンクリートとした。



藤吉洋一郎氏

有効な断面積を狭い土地で確保するにはこの方法しかなかったが、それによって失われたものがあつた。川にゴミを捨て、汚水を流し、悪臭を嫌がり、川を埋め、蓋をし、マンションは川に背を向けて建てるという悪循環であった。社会全体が川に背を向け

る時代だった。

ももとの川の役割を考えると、洪水のときではなく、普通の日の川の役割を考えるべきである。様々な生き物が水辺で生きている。その自然を大切にしなければならないのではないのか。川とのふれあいの中で、人は歴史、文化を育んできた。川は風土をつくり、人々に安らぎを与え、健全な心身を育むために役立っていた。それを 1 日の洪水のために失ってよいのであろうか。ひとたび自然の浄化、再生能力を超えてしまうと、取り返しがつかなくなる。その範囲内で自然と付き合わなければならない。

再生への道

川と人との関わりを見直すことを始めるのにも皆さんの大変な努力がいてと思う。だが、それを伝えていく場と言うか、そういったものを子どもにも孫にも伝えていくという文化に育てることが大切なのではないか。様々なところで少しずつ違う活動をしている人が色々な形で育てていく、そういう風なことなのかなと思う。子どもに戦後の高度経済成長の時代とは違った価値観を持って、違った時間の過ごし方がより多くなっていくことに希望が持て、そういった活動が長く続いていくことを望んでいる。